

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	地理
科目基礎情報					
科目番号	0029		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	新詳地理(帝国書院)/新詳高等地図(帝国書院)				
担当教員	宮本 寛和				
到達目標					
<p>1. 自然環境、資源、産業、都市・村落、生活文化に関する地域性について系統地理的に理解できる。</p> <p>2. 現代世界を構成する各地域を地誌的に考察し、多様な特色を持っていることを理解できる。</p> <p>3. 地理的に考察する意義や有用性に気づき、地理的な見方や考え方を身につけられる。</p>					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベル (可)	
到達目標1		自然環境と人間生活のかかわりと地域性について、地理的事象から課題を設定し、追究できる。	自然環境と人間生活のかかわりと地域性を系統地理的に理解し、それらの知識を身につけて説明できる。	自然環境と人間生活について、個別の事象のみ説明できる。	
到達目標2		現代社会の各地域に関する資料や情報を地誌的に追究する技能を身につけ、まとめることができる。	現代社会の各地域について、多様な特色があることを理解し、それらの知識を身につけて説明できる。	現代社会の各地域について、特定の国・項目についてのみ説明できる。	
到達目標3		現代世界の多様性や地域性をとらえる視点や方法を考察し、系統地理・地誌の両面から説明できる。	地理的に考察する意義と有用性に気づき、現代世界と日本を概観し、地理的事象について説明できる。	地図を見て、現代社会の各地域の位置と地形のみ説明できる。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察する。				
授業の進め方・方法	講義形式での授業をつうじて、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。				
注意点	都道府県名や主要国名、首都名などは地理学習の基本です。地図帳を開く習慣を身につけてください。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	地理情報と地図、地図の活用	地図でとらえる現代世界について、地図化のメリットや地図化がわかることを考察し、地図化の技能を習得している。	
		2週	自然環境	地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。	
		3週	自然環境	地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。	
		4週	自然環境	地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。	
		5週	自然環境	地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。	
		6週	自然環境	地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。	
		7週	自然環境	地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	資源と産業	産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。	
		10週	資源と産業	産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。	
		11週	資源と産業	産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。	
		12週	資源と産業	産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。	
		13週	資源と産業	産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。	
		14週	資源と産業	産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。	
		15週	資源と産業	産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。	
		16週	期末試験答案返却時間		
後期	3rdQ	1週	人口、村落・都市	村落・都市の立地や発達・機能に関する資料や情報を系統地理的に追究する技能を身につけている。	
		2週	人口、村落・都市	村落・都市の立地や発達・機能に関する資料や情報を系統地理的に追究する技能を身につけている。	
		3週	人口、村落・都市	村落・都市の立地や発達・機能に関する資料や情報を系統地理的に追究する技能を身につけている。	

4thQ	4週	生活文化、民族・宗教	衣食住の差異と社会のかかわりについて感心を高め、それらの多様性や地域性をとらえる視点や方法を身につけている。
	5週	生活文化、民族・宗教	衣食住の差異と社会のかかわりについて感心を高め、それらの多様性や地域性をとらえる視点や方法を身につけている。
	6週	生活文化、民族・宗教	衣食住の差異と社会のかかわりについて感心を高め、それらの多様性や地域性をとらえる視点や方法を身につけている。
	7週	生活文化、民族・宗教	衣食住の差異と社会のかかわりについて感心を高め、それらの多様性や地域性をとらえる視点や方法を身につけている。
	8週	中間試験	
	9週	現代世界の諸地域	世界の諸地域よ多様性について地誌的に理解するとともに、地誌的にとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身につけている。
	10週	現代世界の諸地域	世界の諸地域よ多様性について地誌的に理解するとともに、地誌的にとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身につけている。
	11週	現代世界の諸地域	世界の諸地域よ多様性について地誌的に理解するとともに、地誌的にとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身につけている。
	12週	現代世界の諸地域	世界の諸地域よ多様性について地誌的に理解するとともに、地誌的にとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身につけている。
	13週	現代世界の諸地域	世界の諸地域よ多様性について地誌的に理解するとともに、地誌的にとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身につけている。
	14週	現代世界と日本	日本が抱える地理的な諸課題を認識し、解決の方向性を考察できる。
	15週	現代世界と日本	日本が抱える地理的な諸課題を認識し、解決の方向性を考察できる。
	16週	期末試験答案返却時間	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	3
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3

評価割合

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	80	0	20	0	0	100
基礎的能力	80	0	20	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0